国立大学法人
福島大学
Fukushima University

プレス発表資料６

令和４年12月７日

地元研究者の長年の調査をもとに、震災前の県海岸部や帰還困難区域の植生・景観を明らかに

東日本大震災前の帰還困難区域や福島県海岸部における動物、植物、菌類、植生、景観や、地元の人による里地里山の管理や利用の状況を明らかにするために、地元の研究者が記した記録と、撮影された写真を電子化し、標本と照らし合わせることで植物の同定の確認を行った上で、公開するプロジェクトを共生システム理工学類の黒沢高秀教授らが開始しました。その第一段として、1990年の南相馬市小高区、浪江町、双葉町などでの観察記録と写真の一部を福島大学の紀要『福島大学地域創造』第34巻１号で発表しました。

福島県浜通り地方は、東日本大震災の津波・地盤降下とその後の復旧・復興事業、および福島第一原子力発電所事故による避難に伴う人の影響の消失や軽減により、環境が大きく変化した地域です。東日本大震災がもたらしたこの津波と地盤降下は、海岸林の壊滅的な被害、広大な干潟や塩性湿地の出現、海岸生絶滅危惧植物の出現や繁茂など、海岸部の植物多様性に大きな影響を与えました。復旧・復興事業が広く行われた結果、津波被災地の生態系は人為的に大きく改変され、平野の海岸の大部分には、現在消波ブロック、防潮堤、山砂盛土とクロマツ植林を伴う海岸防災林などが広がっています。また、帰還困難区域では、長期に渡る立ち入り制限により人の暮らしが失われ、人の影響が減少または消失したことにより、里地里山の植生、景観、土地利用が大きく変化し、植物多様性に大きな影響を与えていることが観測されています。

震災前にどこにどのような植物が生育し、それを地元の人がどのように利用していたかなどの生物多様性やその地域の暮らしとの関わりなどの情報は、復興に重要な情報で、環境放射能の生態系内の挙動に関する研究にとっても基礎となるものです。しかし、福島県浜通り地方では生物に関する研究があまり行われておらず、維管束植物に関する情報も限られていました。

福島県浜通り地方の学校教員であった櫻井信夫氏は、教員時代から地元の植物の研究を始め、さく葉標本の採集や、植物や植生観察の記録を精力的に行ってきました。櫻井氏は５冊のノートからなる手書きの『植物観察と採集日記』(No.1～4）および『小高町植生調査』に、調査の際に観察した鳥などの動物、植物、キノコなどの菌類、植生、景観の情報を記しました。そこでは、山菜採りやキノコ狩りなど地元の人による里地里山の管理や利用の様子も活き活きと描かれ

ています。特に、調査や研究がほとんど行われてこなかったことにより概して情報が乏しい、東日本大震災前の福島県の海岸部や帰還困難区域の植物に関しての貴重な記録が膨大な数含まれています。

そこで、共生システム理工学類の黒沢高秀教授らは、公益財団法人自然保護助成基金の助成を受けて、東日本大震災前の帰還困難区域や福島県海岸部における動物、植物、菌類、植生、景観や、地元の人による里地里山の管理や利用の状況を明らかにするために、『植物観察と採集日記』および『小高町植生調査』、調査の際に撮影された写真を電子化し、標本と照らし合わせることで植物の同定の確認を行った上で、公開するプロジェクトを開始しました。その第一段として、1990 年の観察記録と写真の一部を『福島大学地域創造』第 34 巻 1 号で発表しました。この中には、主に南相馬市小高区の他、浪江町川房、双葉町石熊などで観察された植物の生育状況や、山菜採りやキノコ狩りなどの様子が記されています。今後、『福島大学地域創造』第 34 巻 2 号（2023 年 2 月発行予定）以降に残りの部分を連載していく予定です。

なお、櫻井氏は退職後の 1996～2007 年に福島県海岸部を踏査し、その際に 324 地点について 303 種類 3,163 件の植物の記録を 2 万 5 千分の 1 地形図に記しました。この地形図に記された情報に関しては、2013 年に『福島大学地域創造』第 25 巻 1 号で発表されました（櫻井他 2013）。また、約 1 万点の植物のさく葉標本（押し葉標本）と写真も寄贈され、現在福島大学貴重資料保管室と共生システム理工学類生物多様性保全研究室で保管されています。『植物観察と採集日記』および『小高町植生調査』、地形図、標本、写真などは、警戒区域（当時）内の櫻井氏の自宅にあったために、2012 年に関係者により資料レスキューされたものです。これらの資料やレスキュー・福島大学への寄贈などの経緯については、南相馬市博物館で平成 28 年度特別展「櫻井先生のあつめた浜通りの花々～櫻井信夫 半世紀、一万点の押し花標本・写真コレクション～」（2017 年 1 月 14 日～3 月 26 日）として紹介されました。

2022 年 9 月発行の『福島大学地域創造』第 34 巻第 1 号で発表された『植物観察と採集日記』の 1990 年部分を記した論文は、現在福島大学学術機関リポジトリで pdf がダウンロード可能となっています。

論文名：東日本大震災前の帰還困難区域を含む市町村または地区(南相馬市小高区，飯舘村，葛尾村，浪江町，双葉町，大熊町，富岡町)および福島県海岸部における植物や景観等の状況(1)

著者：櫻井信夫（あぶくま生物同好会）・黒沢高秀（福島大学共生システム理工学類 教授）

掲載雑誌、ページ：福島大学地域創造　第 34 巻第 1 号　99～107 ページ
発行年月：2022 年 9 月

福島大学学術機関リポジトリ
http://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/
当該論文
https://ir.lib.fukushima-u.ac.jp/repo/repository/fukuro/R000005908/18-407.pdf

本研究は公益財団法人自然保護助成基金第 32 期（2021 年度）プロ・ナトゥーラ・ファンド助成（研究タイトル「福島県内浜通り地域の震災前の植物観察記録の電子化と分析」）を受けて行われたもので，一部 JSPS 科研費 18H04146，21RG006 の成果を含んでいます。本研究で用いた標本は三井物産環境基金研究助成 No. R12-F2-217，福島大学平成 25 年度プロジェクト研究推進経費 No. 2，および JSPS 科研費 24650584 により整理されたものです。

（お問い合わせ先）
共生システム理工学類・教授　黒沢　高秀
電　話：024-548-8201
メール：kurosawa@sss.fukushima-u.ac.jp